

Dirty Little Secret

クラシックなプレキシから70年代初期英国製アンプのSuper LeadとSuper Bassのサウンドとレスポンスまで再現。

あの英国製アンプはパフォーマンスを盛り上げ、ロックンロールのサウンドを形作りました。

ハウスイライトが暗くなると、ぼんやりとした暗闇の中で見えるのは、バックラインのスタックから輝く赤いパイロット ライトの列だけです。自分専用の英国製アンプスタックや、それらを選ぶロードクルーがいない場合、Dirty Little Secret(DLS)がトーンの秘密兵器として最適です。これは「常時オン」のペダルで、ペダルボードの「基盤」となるように設計されており、どんなアンプでもあの激しい英国製スタックに変身させます。

ギターサウンドの核となるこのペダルは、ブースター、ファズ、フィルター、その他のオーバードライブをその前に追加することで、強化したり装飾したりできます。常時オンにしておける理由は、ギターのボリューム・ノブを戻すだけで、素晴らしいクリーン・サウンドが得られるからです！

これが、オールドスクールな英国製アンププレイヤーのやり方で有名なDirty Little Secretの最新の進化形であり、最もダイナミックな英国製アンプスタイルのオーバードライブです。

内部スライダースイッチ

ボイシング・モード・スイッチは、単に低音を追加して「Super Bass」にするといった単純なものではありません。トーン・スタックと主要なファースト・ゲイン・ステージのパラメーターを完全に再構成し、本格的なSuper LeadまたはSuper Bassタイプのレスポンスを実現します。高音・中音・低音のトーン・コントロールは、Super LeadやSuper Bassアンプのトーン・スタック回路を正確に再現します。そのため、SLモードからSBモードに切り替えると、トーン回路がSuper Bass回路に再設定されます。少し歴史的な話をする、初期のプレキシ・マーシャルやJTM45にも「Super Bass」トーン・スタックが搭載されていました。60年代後半のギタリストがよりアグレッシブなカッティング・サウンドを求めていたため、後にSuper Leadアンプでは中高域を強調するように変更されました。SLトーン回路と比較すると、SBトーン回路は低域のレスポンスを低めにシフトさせ、SLモードよりもいくらか「スクープ」されたサウンドになります。実際には、それほどスクープされているわけではありませんが、SLモードではアッパー・ミッドレンジのカットが加わり、クラシックなSuper Leadのケランのようなレスポンスが得られます。SLとSBのどちらの音色も魅力的なので、両方にアクセスできるようにしたかったのです！

Super Lead モード

Super Lead モードでは、Marshall Super Leadアンプの素晴らしいハーモニクス、タッチ・センシティブティ、キャブ・サム、ケラゲを備えた素晴らしいロック・サウンドが得られます。Super Bassモードよりもゲインが高いSuper Leadモードは、ハムバッカーを搭載したギターに最適です。ゲインレンジは、クラシックなプレキシからモディファイされたJCM800レベルまで対応します。また、素晴らしいプレキシのように、ギターのボリューム・ノブをひねるだけで、クリーンからスクリームまで変化させることができます。Super Leadのように、このギターのボイスはドスの効いたアッパー・ミッドレンジのケラゲが特徴です。これぞロック・サウンド！

Super Bass モード

Super Bass モードは、Marshall Super Bass (JTM45, JTM50/100、または非常に初期のプレキシに非常に似ています)のトーンとゲイン構成を提供します。このモードは、オールド・チューブ・アンプが得意としていた、「クリーンでもなく、ダーティーでもない」という、つかみどころのない中間的なレスポンスに磨きをかけるために作られました。そして、ファズ・ペダル (特にFuzz Faceのような2トランジスタ・ベースのファズ) を素晴らしいサウンドにするために特別にボイシングされました。ストラトとファズ・フェイスを新しいDLSのSBモードで繋げば、その意味が分かるでしょう！そのサウンドは、より深い低音と中低域の強調 (Super Leadモードの中高域の強調とは対照的) で、特にフェンダー・スタイルのギターとの相性が抜群です。(ベースも！)。

マーシャル・Super Leadの回路は、最初のゲイン・ステージで多くのロー・エンドをカットしますが、Super Bassや古いSuper Leadは多くの低音を通します。Super Leadが低音をカットするのは、アンプの出力を上げたときにタイトな状態を保つためです。そして、DLSのSLモードがまさにそうなので、クラシックなマーシャルの周波数ポイントで低域のレスポンスをタイトにし、ゲインのポテンシャルを上げることで、ホットでレスポンスが速く、ゲイン感のあるサウンドを実現します。ハムバッカーとの組み合わせでは実に素晴らしいサウンドですが、フェンダー・スタイルのギターでは、プレイヤーはよりフルなレスポンスを好むかもしれません。

Super Bassモードでは、周波数特性がフルに前面に出るため、すべての音が通ります。やや遅めのレスポンスになりますが、中間のゲインレベルに最適な太いトーンが得られます。これこそが、ファズ・フェイスのようなファズと相性が良い理由です。Super Leadは低音を前面に出すすぎ、ゲインアップしすぎるため、ファズ・フェイスは巨大でふくよかなサウンドではなく、尻のようにつまったサウンドになってしまいます。ファズ・フェイスとマーシャル・ファンなら、私たちが何を言っているのかわかるでしょう。マーシャル・アンプ・マニアの言葉を使えば、新しいDLSのSLモードとSBモードの違いは、古いマーシャルのスプリット・カソードとシエード・カソードのコンフィギュレーションに似ています。スプリット・カソードでは700hzあたりからハイパス・レスポンスが始まるのに対し、シエード・カソードではすべてを通す。しかし、SBモードはシングルコイルのためだけのものではありません。これは、クラシックなAC/DCのサウンドを得ようとする場合に必要モードである。ヘンドリックス・ファンにはたまらないモードです。このサウンドを念頭に置いてボイシングされています！ファズを前面に出さない場合は、The Wind Cries Maryを思い浮かべてください。ファズを前面に出したら？ヘンドリックスのライブ音源を引っ張り出してきてください！

Dirty Little Secret

内部Presence trimpot

内部にtrimpot（底板を外すとアクセス可能）があり、ペダルが出すプレゼンスや高音域の量を微調整できます。工場出荷時は、ほとんどの状況で最高のトーンが得られるように設定されています。しかし、ギターやアンプ、好みは人それぞれなので、ペダルの最終的な明るさをコントロールできるようにしました。DLSをリグに装着して十分な時間を過ごすまでは、Presence trimpotを調整しないことをお勧めします。自宅やリハーサル、ライブで演奏してみれば、調整が必要かどうかがよくわかるはずです。しばらくすると、あなたのリグや好みではペダルが少し明るすぎると感じるかもしれません。そのような場合は、trimpotを調整してブライトネスを少し下げることができます。これはTrebleノブの調整とは異なります。Trebleノブは回路のトーンスタック・セクションにあり、実際にはアッパー・ミッドレンジの周波数を調整します。Presence trimpotは最終的なブライトネス・コントロールで、3kHz付近を調整します。バンドやドラマーのシンバルをカットするために、もう少しブライトさが必要だと感じたら、Presence trimpotをもう少し明るく調整してください。工場出荷時の設定は、トリンプットのちょうど半分です。

電源

DLSの電源は、エフェクター用に設計された高品質な電源であれば何でも構いません。出力はDC9V～18Vのセンターマイナスです。ボリューム、ヘッドルーム、パーカッシブなアタックをもっと出したい場合は、18Vの電源を使ってみてください。9Vの電源では、サウンドがややソフトになり、飽和しやすくなります。50Wと100Wのアンプの違いのようなものです！18Vはバンド演奏に最適です。ミックスを切り裂くパワーで、素晴らしいアタックと明瞭さを得ることができます。また、3～4Vまで放電したバッテリーを使えば、さらにソフトなサウンドになり、誰も起こしたくない深夜のジャムセッションに最適です！あるいは、「飢餓」電圧を供給できる電源を使うこともできます。これは一種のバリアックのようなもので、同じ利点が得られます！このようなさまざまな電源供給オプションを試してみて、ご自分の好みに合うものを見つけてください！

アンプ

一般的に言って、DLSは比較的クリーンでニュートラルにセッティングされたチューブ・ギター・アンプに最適です。しかし、すでにオーバードライブしているアンプをさらにオーバードライブさせるのにも効果的です。フェンダー・スタイルのアンプをお使いの場合、トーン・コントロールを次のように設定してみてください：

Treble 6、Middle（アンプに付いている場合）6、Bass 3、Volumeを2～4の間。

これは一般的にフェンダー・アンプから得られる最高のレスポンスであり、実際、開発ラボでペダルのヴォイスングを行う際

に使用される基本的な設定です。アンプの真空管についての注意事項です。DLS（そしてペダル・チェーン全体）から最高のトーンとレスポンスを得るには、アンプに良い音の真空管を使用してください。特に、アンプのプリアンプ・ステージの最初の真空管は非常に重要です。安物や欠陥のある真空管は、DLSの音を弱くしたり、硬すぎたり、屁のような音にしたり、あるいは単に刺激的でない音にしたりします。アンプの真空管について調べたり、DLSと組み合わせる初段のプリアンプ用真空管を変えてみたりして、トーンを微調整しましょう。

クイックスタート

ダートボックス？それはとても簡単です。プラグを差し込み、ノブを回してギターをロックしましょう。3つのトーン・ノブを探り、プリアンプ・コントロールで異なるゲイン設定を試してみるのがセオリーですが、まずはペダルボードから離れて単体で接続してみましょう！ペダルボードに組み込む前に、単体で使ってみましょう（シグナルチェーンに最適な配置のヒントをお教えします）。

Dirty Little Secretは「Super Lead」モードで出荷されます。そのため、箱から出して最初に接続したときに聴くのは、おそらくこのモードでしょう。Dirty Little Secretでロック・セッションを楽しんだら、またここに戻ってきて、新しいDLSを最大限に活用するためのヒントや洞察を得ましょう。

Dirty Little Secret

Controls

TREBLE,MID,BASS

トーン・コントロールは、ペダルがどのモードに設定されているかによって再構成されます。SLモードであろうとSBモードであろうと、トーン回路はSuper LeadやSuper Bass Marshallに搭載されているトーン回路と全く同じであり、アンプのカウンターパートと同じように動作し、相互作用します。そのため、経験豊富なマーシャル・プレイヤーであれば、これらのトーン・コントロールに違和感を覚えることはないでしょう。このトーン・コントロールはEQコントロールではなく、TONEコントロールであることに留意してください。Super LeadとSuper Bassアンプのサウンドの大部分は、トーン・コントロール回路によるものです。トーン・コントロールは非常にインタラクティブで、他のトーン・ノブの設定に左右されます。探しているトーンを見つけるには、実験が鍵です。基本的なトーン・セッティングが決まったら、ノブをわずかに回すだけで、正確な調整ができることに気づくでしょう。カッティングが足りない？トレブルをほんの少し上げてください。低音が強すぎる？ベース・コントロールをほんの少し下げてください。あるいは、トーンの切れ味が足りないと感じたら、Trebleを上げるのではなく、Middleコントロールを少し下げただけでいいかもしれません。トーン・ノブをじっくりと試してみてください。

ギターのエネルギーのほとんどは中音域にあるため、Middleノブは一種の「ゲイン」ノブとも考えられます。そのため、可能な限りゲインの高いサウンドを出したい場合は、Middleノブを高めに設定します。しかし、ゲインを抑えたサウンドが欲しければ、Middleノブを下げてください。つまり、TrebleノブやBassノブをさらに低くしてバランスを取ることもできます。

トーン・ノブを設定する方法はたくさんあります。まず正午から始めて、そこから調整します。それで何も問題はありません。すべてのトーン・ノブを最小値から始めてみてください。ペダルがフルに周波数を出しているのに、それが出ていないのがわかるでしょう。マーシャルでは、トーン回路はプリアンプの最初の2つのゲイン・ステージの後にあり、DLSはこれと同じ基本構造を踏襲していますが、真空管の代わりにJFETSを使用しているからです。対照的に、ブラック・フェンダーやシルバー・フェンダーのトーン回路は、1つの真空管ステージの後、ボリューム・ノブの前にあります。とにかく、まずはトーン・コントロールを最小にして、トレブル・コントロールを高域が十分に感じられるところまで上げ、次にミドルのトーン・コントロールをトーンが十分に埋まるまで上げます。そして最終的にBassコントロールに到達する際には、Bassを追加する必要がないことに気づくかもしれません。この方法でトーン・コントロールを設定すると、最終的にはそれほどトーンを上げずに済むことがわかります。この方法は、オーバードライブし始めたばかりの、タッチに敏感なクリーン/クランチ・サウンドを見つけたい場合に特に効果的です。また、ゲインを最大にしたい場合は、TrebleとMiddleを最大に、Bassを最小に設定し、そこから微調整してください。実際、TrebleとMiddleをフルに、Bassをゼロに設定し、Super BassモードでPre-Ampを2:00付近に設定すると、素晴らしいAC/DCサウンドが得られます。

SLモードとSBモードのトーン・コントロールの違い

SBモードでは、TrebleノブはTreble周波数の高いスライスをコントロールします。SLモードでは、Trebleノブを上げると、アッパーミッドの存在感が増します。そのため、SLモードではTrebleコントロールは「ふくよか」なサウンドになります。重要なMiddleノブ。SBモードではローミッドが、SLモードではアッパーミッドがプーストされます。これが、2つのモデルの音色の違いの大きな部分を占めています。Bassノブは、どちらのモードでも多くのローエンドを通します。SBモードでは、プーストされたローがより深くなります。そしてSLモードでは、影響を受けた低域がわずかに高くなり、まさに「ドスン」と響くゾーンになります。SLモードでは、TrebleとMiddleコントロールでアッパーミッドが強調され、Bassノブでサンプリング周波数が強調されるため、ふくよかでありながらバンドミックスを切り裂くロックサウンドに最適です！スーパー・リードがほとんどすべての人に愛用されたのも不思議ではありません！SBモードとSLモードの両方のトーン・コントロールをじっくりと試して、そのユニークな特性を実感してください！

Dirty Little Secret

Controls

PRE-AMP

これはゲインやオーバードライブの量をコントロールします。新しいDLSは、ほとんどのプレキシ・マーシャルが実際に得ているゲインよりも、もう少しゲインアップできるようにチューニングされています。Super Bassモードは、Super Lead モードよりもゲインが低くなるようにチューニングされ、初期のマーシャルのレスポンスがより得られるようになっています。だから、どのモードに入っているかによって、プリ・アンプ・コントロールの反応も違ってきます。Pre-Ampコントロールの回転の全域で素晴らしいトーンが得られるので、時間をかけて完璧なスイートスポットを見つけてください！一般的に、Pre-Ampコントロールを低く設定すればするほど、Masterボリューム・コントロールを高く設定したくなり、Bassノブを高く設定しても大丈夫になります。新しいDLSは、ゲインを上げてワウ・オンするだけでも楽しいですが、より低いゲインのオーバードライブも微妙に変化します。プリ・アンプ・コントロールを低めに、マスター・ボリュームを高め設定すれば、ほぼクリーンなサウンドが得られ、DLSのトーン・ノブをトーン・シェイパーとして使うこともできます。

MASTER

出力音量を調節するノブです。DLSから最良のレスポンスを得るには、DLSを使用したサウンドがバイパスしたサウンドよりも少し大きくなるようにマスターボリュームを設定する必要があります。実際、トーンとプリアンプのコントロールが設定できたら、Masterボリュームを前後に調整し、アンプや他のシグナル・チェーンとのインターフェイスのスイート・スポットを見つけてください。

SLモードよりもSBモードの方が、同じ音量を得るためにMasterコントロールを上げる必要があることに気づくでしょう。これは普通のことです、SBモードの方がゲインが低いからです。

ギター本体のボリュームはダーティ・リトル・シークレットと連動していることを覚えておいてください。

そう！ギターのボリューム・ノブは、Dirty Little Secretのコントロール・サーフェスの一部だと考えるべきなのです。Pre-AmpをクランクさせたSuper Leadモードでも、ギターのボリューム・ノブを戻せば完璧なクリーン・サウンドが得られます。また、ギターのボリューム・コントロールを変化させるだけで、繊細なオーバードライブを100種類もの異なる色合いで表現することができます。最高のボリューム・ノブ・レスポンスを得るためには、ギターとDLSの間にどんなペダルが入っているかに注意してください。ギターをDLSに直接接続し、ギターのボリューム・ノブを変化させて演奏してみましょう。その後、DLSをペダルボードに戻すと、他のペダルがDLSにどのような影響を与えているかが分かります。

スペック

サイズ: 4.9x5.9x10.9cm

重量: 182g

アダプター: センターマイナスDC9-18V

電池駆動: 9V電池

消費電流: 5mA@9V, 7mA@18V

インプットインピーダンス: 10M

アウトプットインピーダンス: 90k

コントロール: Master, Pre-Amp, Treble, Middle, Bass, SL/SB<, Presence

正規輸入代理店

Quanta Intl.

サポートはこちら

<https://quanta-intl.jp/support/>



catalinbread
MECHANISMS OF MUSIC

WARRANTY POLICY

この度はCatalinbread製品をお買い上げいただきまして
まことにありがとうございました。

本品は厳密な製品検査に合格したものです。

御使用中に故障した場合は下記保証規定に従い修理・調整致します。

- 1 - 本保証書の有効期限はお買い上げ日より1年間です。
 - 2 - 本保証書は日本国内のみ有効です。
 - 3 - 保証期間内でも次の場合の修理は有償となります。
 - a. 消耗品（電池、真空管、パーツ等）の劣化による交換。
 - b. 保証期間が満了しているパーツが原因による故障。
 - c. お取扱い方法が不適当なために生じた故障。
 - d. お買い上げ後の運搬、落下や加重等による損傷、故障。
 - e. 天災（火災、浸水、地震、落雷等）による故障・破損。
 - f. 発電機の使用による故障。
 - g. 故障・破損の原因が本製品以外の機器にある。
 - h. メンテナンス不足による故障。
 - i. 指定外の者による改造、調整、部品交換などがされている。
 - j. 指定外の者による修理、調整、部品交換などにより生じた故障。
 - k. 保証書の字句が書き換えられている。
 - l. 保証期間内においても、保証書のご提示が無い。
 - m. 取扱説明書における禁止/注意事項を行ったために起きた破損
 - 4 - 修理中の代替品や商品の貸出し等は、いかなる場合におきましても一切行っておりません。
 - 5 - 保証書に購買日付、購買店舗等の記入が無い場合は無効となります。記入できない時はお買い上げ年月日・店名が証明できる領収書等と一緒に保管して下さい。
 - 6 - 保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管して下さい。
-